

2011年度(平成23年度)

事業報告書



公益財団法人キープ協会

目次

2011 REVIEW	2
I. 環境教育事業部	3
1. やまねミュージアム＝環境研究所	
2. 環境教育指導者養成・普及事業	
3. 八ヶ岳環境と文化のむら 山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター(指定管理事業)	
4. 環境省・日光国立公園 那須平成の森・那須高原ビジターセンター	
5. 環境研究所＝環境教育研究	
6. 地域との環境教育事業 八ヶ岳田んぼの学校・清里子ども自然クラブ	
II. 酪農事業部	10
III. 研修交流事業部	11
1. 清泉寮	
2. 自然学校	
3. ポール・ラッシュ記念センター	
IV. 国際地域事業部	15
V. 保育事業部	22
・清里聖ヨハネ保育園	
VI. 製販事業部	23
VII. 管理本部	26
・総務・経理・施設・広報・その他プロジェクト	
VIII. 清里聖アンデレ教会	28

2011 KEEP REVIEW

2012年(平成24年)4月1日、内閣総理大臣の認可による「公益財団法人キープ協会」がスタートしました。

KEEP国際研修交流センター・清泉寮新館が新規開業して3年目にあたる2011年のキープ協会の1年は以下の通りです。

1. 公益財団法人キープ協会スタート

2011年度に準備・申請を行ってまいりました新法人改革への取り組みにつきましては、2012年4月1日付けで公益財団法人として新たなスタートをきりました。

2. プロジェクトチーム

理事長直轄によるプロジェクトチーム。

「経営諮問委員会」…毎月の経営分析と対策協議

「ランドスケープ・プロジェクト」…キープ敷地内のマスタープラン作り

「キープ・ウインター・プロジェクト」…冬期間の集客活動(巨大氷のリース設置や企画イベント実施など)

3. ACK(キープ米国後援会)とキープ協会の合同会議

10月に清泉寮新館で開催。KEEPとACKの合同会議による各々の現状分析や課題の共有。

VISITOR'S COMMITTEE(集客組織化)とINTERNATIONAL PARTNERSHIP COMMITTEE(フィリピン・ツルガオプロジェクトなどの国際協力推進)のワーキンググループによる継続活動。

4. 那須平成の森(環境省より受託)

2010年度「那須平成の森」運営管理準備業務を実施。

2011年度から、開園以後の管理運営業務を環境省より正式受託

5. 財務状況と今後について

減価償却(約1億7300万円)を含んだ決算見込みはおおよそ△5,600万円。

財政再建2年目に向けて、引き続き経営の改善に努めていく。

創設者ポール・ラッシュの理念に基づく、持続可能な公益財団としての活動を継続。

「DO YOUR BEST, AND IT MUST BE FIRST CLASS.」

公益財団法人キープ協会
理事長 茅野 徹郎



I 環境教育事業部

2011年3月に発生した東日本大震災は、環境教育を見つめ直す契機となりました。被災地支援やエネルギー教育という側面で環境教育が注目され、環境教育が目指す持続可能な社会の姿をより現実的に考える1年となりました。

こうした社会の動きの中、環境教育事業部は、教育と研究を両輪として後述の様々な活動を展開しました。

1. やまねミュージアム＝環境研究所

(1) 研究の社会化

A. ヤマネの総合的な研究の推進として以下の研究を行いました。

- ①生態学的研究 ②安定同位体を用いた食べ物の研究 ③生理学的研究
- ④行動学的研究 ⑤遺伝学的研究 ⑥ヤマネを通じた自然環境変化のモニタリング
- ⑦海外のヤマネとの比較研究 ⑧アニマルパスウェイに関する研究

研究の成果は、国内外での学会や学術論文として発表しました。

B. ヤマネ保護と環境保全研究の提案として以下の研究、提案などをしました。

- ①ヤマネの生物学発展についてヨーロッパ（英国、ハンガリー）での国際共同研究
- ②アニマルパスウェイ（ヤマネブリッジ）の共同研究
- ③森林開発に対する森林保全の提案
- ④林野行政への提案
- ⑤学会発表や論文を通して世界に情報発信

C. 研究成果を活かした環境教育の普及

やまねの森ガイド（八ヶ岳自然ふれあいセンターと連携）を年11回、やまね学校（キープ・フォレストーズ・スクールとの連携）年2回実施しました。また、日々の研究成果はプログラムだけでなく館内展示にも反映させています。

(2) 2011年度の重点目標

以下を重点目標に掲げ、事業運営に取り組みました。

- A. 23年間に及ぶヤマネ研究を論文等にまとめ、社会に発信すること。
- B. アニマルパスウェイの国内への普及と開発
- C. 23年間の研究を土台にした研究のステップアップ

(3) 収蔵の充実

将来的に建設が検討されている新やまねミュージアムでの活用を視野に入れて、収蔵の整理を行いました。

(4) 入館者に満足感を提供する工夫と新グッズの製作

オリジナルピンバッジ（毎年色を更新）の配布、随時更新する館内展示（期間限定の冬眠ヤマネ展示など）、新商品の販売（製販事業部との連携）を通して、入館者に

満足いただける博物館運営を行いました。

(5) 開館時間および休館日

- ・ 開館時間：10：00 ～ 16：00（夏季休業期間中は09：00 ～17：00）
- ・ 休館日：毎週月・火曜日（祝祭日の場合は開館。代休なし）
- ・ 特別開館：ゴールデンウィーク、夏季休業期間中、年末年始
- ・ 休館日でも入館希望がある時には対応しました

表1：2011・2010年度やまねミュージアム開館日数・入館者数等の実績

	2011年度	2010年度	増減
年間開館日数	293日	290日	+3日
入館者数	20,629名	18,315名	+2,314名
1日平均入館者数	70名	63名	+7名
利用団体数	57団体	68団体	△11団体
団体利用者数	2,689名	2,921名	△232名

2. 環境教育指導者養成・普及事業

(1) キープ・フォレスターズ・スクールの役割

以下の4つの役割を果たすために、後述の様々な活動に取り組みました。

- A. 環境教育プログラムの提供
- B. 日本の自然を活かしたプログラムの開発
- C. 環境教育ネットワークの支援
- D. 「インタープリター」の役割の普及

(2) 基本的な考え

3つのCを大切に事業運営に取り組みました。

- A. Challenge（チャレンジ）
- B. Communication（コミュニケーション）
- C. Character（個性）

(3) 2011年度重点目標

以下を重点目標に掲げ、事業運営に取り組みました。

- A. 環境教育研究を活かした環境教育実践
- B. キープ協会来訪者へのプログラム
- C. 健康をテーマにしたプログラムへの取り組み

(4) 主催事業

「実験」「協働」「プログラム開発」という位置づけの下、以下のプログラムを実施しました。（表2参照）

表 2 : 2011・2010 年度環境教育プログラムの実績

	2011 年度		2010 年度	
	回数	参加者数	回数	参加者数
宿泊型環境教育プログラム	19 回	373 名	13 回	319 名
日帰り型環境教育プログラム (宿泊者対象プログラムは除く)	4 回	22 名	10 回	96 名
日帰り型地域対象環境教育プログラム	16 回	124 名	9 回	106 名

(5) 受託事業

学校・企業・省庁・自治体などから受託事業を受入れました。(表 3 参照)

表 3 : 2011 年度受託環境教育プログラムの実績

区分	対象	主な利用団体
清里での プログラム	学校関係	立教池袋中学校、聖心女子学院初等科、荒川区立小中学校、大田区立小中学校、府中市立小中学校、小平市立小中学校、横浜女学院、青山学院短期大学、立教大学、明星大学、ハリウッド美容専門学校、東北大学大学院、北杜市教員研修 など
	行政関係	北杜市、青年海外協力協会 など
	一般	日本環境教育フォーラム、J X 日鉱日石エネルギー、NEC、NTTグループ、トトラボ、国土緑化推進機構、北杜市長期滞在型リトリートの杜 など
出張 プログラム	行政関係	栃木県、環境省、林野庁、富士吉田市外二ヶ村恩賜県有財産保護組合、青少年教育振興機構、北杜市 など
	一般	中部電力、サントリーグループ、電源開発、NTTグループ、国土緑化推進機構、全国森林組合連合会、富士見高原リゾート など

(6) キープ協会各セッションとのコラボレーション

各セッションと協働し、キープ協会の宿泊者・利用者へのプログラムを実施しました。また、ポール・ラッシュ祭やキープ・ウインター・プロジェクトなどの取り組みに参画しました。

(7) 指導教育

職員や新職員、実習生のスキルアップのために各種研修の機会を設けました。また、事業部として 6 人の実習生を迎え、関係団体から 2 名の研修生を受入れました。さらに、大学のインターンや各種ボランティアの受入を行いました。

3. ハヶ岳環境と文化のむら

山梨県立ハヶ岳自然ふれあいセンター（指定管理事業）

(1) 指定管理について

2011年度はキープ協会が第2期(5年間)の指定管理者として再指定されてから3年目でした。従来通り5年間の基本方針及び中期的具体目標に基づいて施設運営しました。

(2) 2011年度の事業計画

「自然と音楽（音）」を主テーマに設定し、以下の事業を行いました。

A. 施設展示（随時更新）・プログラムの開発

新規開発およびリニューアルした施設展示：

清里フットパス、ドジョウですドウジョよろしく、生き物の寒さ対策

ハヶ岳涌くわくものがたり、みんなのあそび場～涼しさの知恵あります～ など
新規開発した主催プログラム：

のんびり森あそび音あそび＝年度テーマ「自然と音楽（音）」を具体化
新規開発した自主事業：

自然素材のティーマット作り、雪の切り絵カード作り

B. 自主企画事業の実施

森の癒し効果を科学する～森の音や香りはなぜ心地いいのだろう？

ハヶ岳と大空と音楽のシンフォニー

C. 自然資料収集のための調査

計画時は哺乳類の調査予定でしたが、来館者から質問の多い野鳥情報をまとめ、館内で上映するスライドプログラムを作りました。

D. 教材開発

清里フットパス作りに参画し、3種のコース地図を作成しました。

E. 地域の拠点施設

地域の学校へ出向き、学習支援を行いました。

F. 周辺の文化施設（博物館・美術館）、地域にあるネットワークとの連携（継続事業）

他施設との相互情報発信、「ハヶ岳ミュージアム協議会」「ミュージアム甲斐ネットワーク」などの集まりに参加しました。

G. 自然ふれあい施設としてのハードの整備・施設維持管理（継続事業）

自然歩道の安全確認を行い、必要な修繕を行いました。地震や台風などで被害の出た川俣溪谷の自然歩道については、北杜市と情報交換の上、注意喚起の案内板設置やセンターでの情報発信をしました。また、センター内外の修繕を行いました。

H. 鳥類標識調査の実施

調査実施できませんでした。

(3) 開館状況と入館者数の実績

・開館時間

1月～2月、12月 9:00～16:00

3月～6月、10月～11月 9:00～17:00

7月～9月 9:00～18:00

・休館日 毎週火曜日（ゴールデンウィーク及び夏休み期間中は無休）（表4参照）

表4：2011・2010年度八ヶ岳自然ふれあいセンター開館日数・入館者数等の実績

	2011年度	2010年度	増減
年間開館日	324日	322日	+2日
入館者数	92,699名	102,632名	△9,933名
開館（1994.11）以来の総入館者数	1,501,618名	1,408,831名	
1日平均入館者数	286名	318名	△32名
利用団体数	331団体	326団体	+5団体
団体利用者数	18,254名	17,417名	+837名
プログラム回数・参加者数	226回／4,125名	185回／2,617名	+41回／+1,508名

4. 環境省 日光国立公園 那須平成の森、那須高原ビジターセンター

本業務は、2011年度に財団法人キープ協会が業務を請け負い、実施したものです。

(1) 業務の方針

業務の主たる部分を占める那須平成の森の運営について、『「那須平成の森」における自然ふれあい活動（インタープリテーション）の目的』を示し、業務を実施しました。

那須平成の森における自然ふれあい活動（インタープリテーション）の目的

- A. 生物多様性の保全、自然との共生のあり方などについての教育普及を行い、自然やいきものについて感じ、考える人を育てる。
- B. 自然と歴史を踏まえた森の保全や自然環境調査の重要性とともに、国立公園など自然環境保全の施策についての理解を得る。
- C. 質の高い自然ふれあい活動（インタープリテーション）の計画、実践、人材育成等を通じ、自然ふれあい施設のモデルとして全体的な向上に寄与する。
- D. 自然ふれあいの普及を通じて、自然環境保全のための自発的、主体的な行動を促し、持続可能な社会の実現に貢献する。

(2)開園、開館日

那須平成の森：2011年5月22日(日) 国際生物多様性の日

那須高原ビジターセンター：2011年11月13日(日)

(3)業務の内容

表5：那須平成の森・那須高原ビジターセンターの実績

那須平成の森		
	年間開館日	298日
	入館者数	126,018名
	団体利用者数	36,159名
	公募ガイド参加者数	3,578名(実施回数：399回)
	公募ガイド特別編参加者数	84名(実施回数：10回)
	無料ミニプログラム参加者数	7,441名(実施回数：990回)
	受託団体ガイド参加者数	954名(団体数：48団体)
	受託団体自然体験プログラム参加者数	729名(団体数：20団体)
那須高原ビジターセンター		
	入館者数	10,122名
	団体利用者数	3,589名

その他の業務

- A. 那須平成の森基金事務局運営
- B. 那須町、栃木県との連携事業
- C. 地域との連携事業
- D. 那須平成の森管理維持業務
- E. その他

(4)開館状況

A. 那須平成の森

・開館時間

4～11月 9：00～17：00 12～3月 9：30～16：30

・休館日

4～11月 無休 12～3月 毎週水曜日(祝日の場合は翌日)

B. 那須高原ビジターセンター

・開館時間

4～11月 8：30～17：30 12～3月 9：00～16：30

・休館日

4～11月 無休 12～3月 毎週水曜日(祝日の場合は翌日)

5. 環境研究所＝環境教育研究

環境研究所は、次の2つの柱から構成されます。

(1)やまねミュージアム

上記に記しました。

(2)環境教育研究

グループ単位で環境教育研究に取り組み、各々の成果を共有するために研究発表会を冬季に行いました。

6. 地域との環境教育事業＝八ヶ岳田んぼの学校、清里子ども自然クラブ

地域社会との連携を深めるために以下の活動に取り組みました。

(1)八ヶ岳田んぼの学校

活動の一環として地元の子ども達を対象にした「カエルっこクラブ」を7回実施しました。(表2参照)

(2)清里子ども自然クラブ

地域の子どもとその保護者対象に9回のプログラムを行いました。(表2参照)

(3)学校教育

北杜市立高根清里小学校に出向き、学習支援を行いました。

(4)その他

北杜市の環境教育講座等の講師を務めました。また、山梨県・北杜市の環境教育関連の各種委員やネットワークの構成員を務め、地域内の環境教育ネットワークを強化しました。

Ⅱ. 酪農事業部

1. 管理草地 70ha で常時 130 頭のジャージー乳牛の飼育管理を主とした酪農業務に専念しました。そのうち 62 頭の搾乳を行い、総生産乳量 186,650kg の牛乳を生産いたしました。その殆どはタカハシ乳業（群馬県、前橋市）に出荷、低温殺菌による製品化を経て、keep ジャージー牛乳として、主に首都圏で販売、また消費者団体にも流通されました。高品質、安全、安心のジャージー牛乳として高く評価され販路も安定してきました。

① 主な販売先：帝国ホテル、伊勢丹百貨店、成城石井、明治屋、日本アクセス

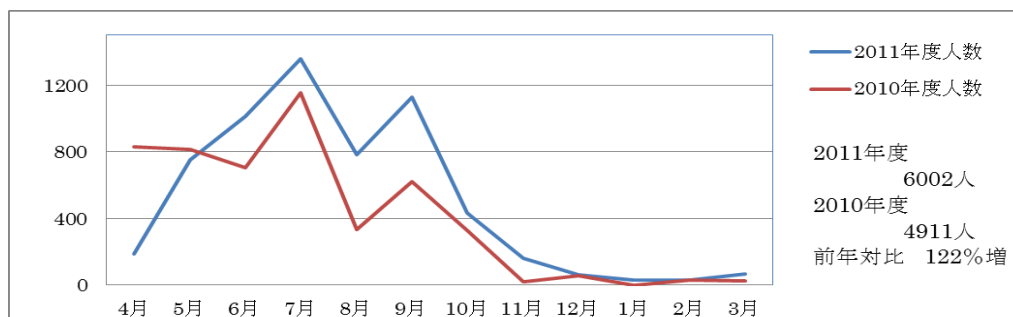
② 消費者団体：所沢生活村、大宮みかんの会、大地を守る会

2. 山梨県の酪農経営の安定のため、山梨県畜産課、酪農試験、西部家畜保健所、山梨県畜産会、家畜改良協会、乳量検定組合等に乳牛飼育者の立場で協力しました。
3. 教育農場としての役割を果たすべく日本大学生物資源科学部 20 名、麻布大学獣医学部 10 名の体験実習をうけいれました。また年間を通じて酪農体験プログラムの受け入れを行った。ゴールデンウィーク、夏休み等の来場者が、多い時期に搾乳体験、ハイライドなどを行いお客様にも酪農を理解していただけるように努めました。
4. 製菓事業部の協力を得て、ジャージーの肥育牛（雄仔牛）の利用に努めました。
5. 家畜共済、畜産会の指導により、繁殖の向上を図るため、老廃牛を淘汰、飼料や牧草の安心安全、衛生面を改善し、有機 J A S 認定牛乳の生産販売に努めました。
6. 社団法人中央酪農会議より酪農飼料基盤拡大事業を実施しました。
7. 5月24、25、26日の両日には、ヤンマー農機新入職員研修会（21名）を実施しました。

8. 飼育頭数および乳量

飼育頭数	2011年度	2010年度	増減
成牛	74	87	△13
育成牛	31	23	+8
哺乳牛	15	20（雄仔牛も含む）	△5
合計	120	130	△10
内 搾乳頭数	62	65	△3
総生産乳量	186,650kg	180,654kg	+5,996kg

9. 酪農体験プログラム利用者数



Ⅲ. 研修交流事業部

- (1) 2010年は前年から一転、好成績を収めました。その勢いを持って2011年に臨む予定で夏頃より準備をしておりましたが、3月の東日本大震災により大きく予定が狂ってしまいました。
- (2) 研修交流事業部のスタッフ5名が、新しくできた国際地域事業部へ異動となり、組織的にも大きく変更を求められました。
- (3) 食育部はスタッフが大幅に不足し、加えて震災の影響もあって頼りのアルバイトが集まらず、綱渡りの状況でありました。
- (4) 震災の影響で学校団体の旅行が自粛傾向となり、顧客に学校団体を多く抱える当事業部としては大きな痛手でありました。加えて、外国人観光客の激減で他の宿泊施設等が国内団体を取り込もうと激安価格を提示するなど、団体獲得には非常に厳しい状況でした。新しく営業を担当することになった国際地域事業部・開発部が継続利用の働きかけや新規団体の開拓に努力しましたが、状況は好転せず、団体のキャンセルが続きました。
- (5) 計画停電や交通機関の不通、燃料費高騰、放射能汚染など、観光には風当たりの強い社会問題を抱えた1年でした。
- (6) 清泉寮新館の不具合が続きました。清泉寮本館関係も定期的なメンテナンスを充分行っていないため、故障が多発しました。
- (7) 燃料単価が急騰し、コストを押し上げる大きな要因となりました。
- (8) スタッフが不足し、募集を行っても応募がほとんどない状況でした。

1. 清泉寮

*** 過去比較 ***

清泉寮	2008	2009	2010	2011
宿泊売上	112,534,000	164,418,000	205,537,000	224,793,000
料飲売上	156,772,000	173,000,000	201,717,000	220,305,000
売上合計	276,967,000	353,939,000	424,293,000	456,426,000
料飲原価	52,189,000	56,654,000	67,228,000	73,112,000
原価率	33.29%	32.75%	33.33%	33.19%
人件費	129,531,000	185,484,000	142,728,000	127,905,000
人件費率	46.77%	52.41%	33.64%	28.02%
委託費	13,941,000	32,748,000	31,396,000	31,454,000
業務用消耗品費	15,217,000	37,771,000	12,126,000	12,764,000
雑費	25,988,000	21,519,000	23,969,000	24,115,000
支払手数料	4,006,000	5,061,000	9,454,000	14,898,000
修繕費	4,186,000	12,319,000	6,272,000	13,619,000
光熱・燃料費	21,719,000	51,956,000	47,949,000	49,839,000
賃借料	4,527,000	8,364,000	7,158,000	6,657,000
販売費一般管理費計	105,382,000	192,506,000	155,136,000	168,505,020
管理費率	38.05%	54.39%	36.56%	36.92%
営業利益	-10,957,000	-84,636,000	55,099,000	82,604,980
GOP率	-3.96%	-23.91%	12.99%	18.10%
支払い利息		20,466,000	20,233,000	18,873,000
本部経費	28,836,000	55,853,000	60,298,000	52,350,000
減価償却費	20,919,000	228,790,000	117,576,000	130,125,000
合計	53,109,000	329,683,000	213,171,000	204,810,000
損益	-64,066,000	-414,319,000	-158,072,000	-121,256,000

雑収入として4000万円程度計上されておりますが、特殊事情なので過去比較するうえで除外しています

(1) 宿泊部

清泉寮	2009	2010	2011
稼働率	38.89%	48.35%	50.00%
平均客室単価	16,043	16,176	17,220
平均客室売上	6,238	7,821	8,554

宿泊団体

148団体、延べ人数11521人

(2) 食育部

- A. 原価率が思ったほど下がりませんでした。食事の特色である「地産地消」を維持するため、どうしても原価が上がってしまいました。効率的な材料の利用や、破棄率の軽減などに努力してまいります。
- B. 厨房があまり効率的に設計されていないことや、清泉寮新館建設時に予算の関係で必要な機器がそろっていないこと、清泉寮新館と本館の厨房二か所が離れていること、本館厨房機器に寿命が相当過ぎているものが多いなどの理由により、手間がかかり効率が悪くコスト高の要因となっています。
- C. 新館レストランのキャパシティが宿泊人員にあっていないため、繁忙期のオペレーションにおいて厳しい現状があります。

(3) 経費

- A. 賄材料費：原価率削減へ努力しましたが、野菜や乳製品等の急激な価格上昇（地震や原発に起因する）等により削減努力も帳消しになり、前年並みとなりました。
- B. 委託費：テーブルクロスの使用を削減しました。
- C. 業務用消耗品：予算では2010年度の半減を計画しましたが、古い施設を抱えているため費用がかさみ、前年並みとなりました。
- D. 雑費：前年比200万減を計画しましたが、利用客増加などにより、前年並みの結果となりました。
- E. 事務消耗品：前年並みを予定しましたが、購入を抑えることができず前年比とも1/3となりました。
- F. 支払手数料：インターネットエージェントの手数料率が2%アップした上に、団体の目減り分をネットで埋めたため、手数料が大幅増加しました。また、個人客増加によるカード払いが増加し、カード手数料も大幅に増加しました。
- G. 修繕費：設備投資として計画した清泉寮本館関係のミニマムリノベーションを行ったため、大幅に増加しました。
- H. 広告宣伝費：経費削減に努力し、予算比半減しました。
- I. 光熱燃料費：単価が大幅アップしましたが、節電・省エネに努力したため、ほぼ予算通り。（稼働増を考慮すると、実質は大幅削減ができていると思われます）

2. 自然学校

震災の影響で、団体のキャンセルが続きました。清泉寮と違って団体の穴を個人客で埋める事ができず、上半期は非常に厳しい状況でした。ただ、海から山へという傾向や、東北方面からの旅行先振替などで、夏以降はなんとか踏みとどまっている感じでした。また、主催プログラムを下期に多く設定し、その集客も良く、売上に貢献しました。当初から団体獲得が難しいとの予想のもと、その対策が功を奏し、結果的に予算をクリアすることができました。

2011年度からキャンプ場のオペレーションが国際地域事業部へ移管しました。(そのため前年比較では売上が減少、2010年度キャンプ場売上 16,000,000円)

(1) 食育面

- A. 弁当の販売に力を入れ収入を押し上げました。
- B. 出来るだけお客様の要望（アレルギー対応）を受容れ、安心・安全な食事を心がけ、食材だけでなく食器類にも地元ならではの手作り感を出しました。
- C. 教育面では、「森のようちえん」や聖ヨハネ保育園の「森の日」を中心とした幼児教育が好評でした、特に幼児団体には進んで体験（自然・酪農）を受容れていただきました。
- D. 食育プログラムとして、「八ヶ岳たんぼの学校」の米づくりだけでなく、「応援し隊」での梅漬、干柿、味噌作りなど、1年を通して食と農業とにかかわる企画を実施しました。

(2) コスト

キャンプ場のオペレーションがなくなったため、前年との単純な比較ができませんが、客室・日常清掃の業者委託を極力減らしスタッフで実施したため、委託費などが大幅減となりました。また光熱費も、利用団体が居ない日や時間帯には消灯や休止をし削減に努めました。自然学校の設備投資も抑え、大きな修繕費に関しては見送ることとしました。ただ、10年以上(診療所時代から30年)経って、耐久的に限界を超えているものについては事故に繋がることも考えられるので、計画的な補修が急務であります。

(3) 設備

- A. 地下ボイラー室内コイル故障の修理実施を2010年度に引続き行わず、冬季、地下1階は、ファンヒーターや渡り廊下のパネルヒーター余熱で賄いました。
- B. 備品として、地上デジタル対応テレビを購入。ダイニング網戸修理、真空包装機の買替え、冷蔵庫の増設(チーズ生産)を実施しました。
- C. 緊急性から外壁板と木デッキの張替えは延期し、必要性からコピー機を廃止しました。
- D. 屋上雨漏り補修は、大掛かりな工事なうえ高額なため、先送りとしました。

(4) その他

- A. 東日本大震災の「あんしんの森プロジェクト」では、地元およびキープ関係者の努力で、キープ自然学校のあるべき姿、多くの可能性を見出すことができました。特に自然学校職員の素早い行動決断により、早い段階でプロジェクトが実施できました。
- B. 年間を通して具体的で効果的なPR活動が出来ず、広報的には充分でないまま、施設運営体制にも多くの課題を残しました。
- C. 自然学校の施設案内・主催プログラムの広報も、ホームページはまったくの手付かず状態でした。今まで「口コミ」重視での集客に頼ってきましたが、新規顧客獲得にはホームページの充実が必須です。
- D. 建物がすでに築30年以上となり、本来行うべき定期的なメンテナンスを行ってきていないため、今後改修維持費用が相当かかると想定されます。事故の危険も想定されるので、今後も引き続き事業継続するためには、計画的な設備投資計画が必要です。

3. ポール・ラッシュ記念センター

入館料、売店売上とも予算には届きませんでした。1年間の総来館者数は前年度並みでした。東日本大震災の影響で、GWの大型連休がスタートするまでは、入館者数は大幅な減少でした。GW連休後、企画展を開催しましたが、飛躍的な来館者増には結びつきませんでした。

当初計画では冬期休館予定でありましたが、キープ協会の理念を自覚し、なんとかやりくりの上、通年開館を行いました。根本的な将来像の構築が不可欠です。

ポール・ラッシュ記念センターの専用ホームページは、知識の無いものが気軽に手を付けられない状態で、知識の有る職員に依頼しないと更新出来ない状況でありました。次年度はこれを改善すべく更新の頻度を上げて行きたいと考えます。

ポール・ラッシュ記念館の広報宣伝活動が十分行われていませんでした。多くの方に来場していただくためにも、効果的に情報を提供してゆかなければならないと思います。

IV. 国際地域事業部

1. 国際・キャンプ場

(1) キープアメリカ後援会(ACK)との協働事業

① 国際パートナーシップ委員会 10月8日(土)

フィリピン聖公会北フィリピン教区(EDNP)ブレント・アラワス主教の招聘を担当しました。これまでツルガオを対象に行ってきた食糧、健康、信仰、希望のプロジェクトを、ツルガオを含む複数の山村から成る北フィリピン教区のタイトス(TITUS)管区を対象に再構築する構想です。その事前調査のため、1月19日(木)~1月30日(月)、KEEPから職員を派遣しました。

② ビジター委員会 米国からの日本訪問ツアーの造成を目的に協議開始しました。

③ トライアングル・プロジェクト

ACK ステイシー・ソウルズ会長の発案により、日米比三国の聖公会青年信徒等が集まってそれぞれの国で交流し奉仕活動を行うプログラムです。アラワス主教、日本聖公会横浜教区三鍋裕主教が賛同して、各教区で準備を開始しました。KEEPは、横浜教区と共に、2012年度日本開催のプログラムの準備にあたりました。(その後、米国側の事情によりプロジェクトは1年延期となりました)

(2) フィリピン山岳地域マウンテン州における森林再生事業(緑の募金事業)

在フィリピンの環境NGO「Cordillera Green Network」と事業地の住民組織「Mount Amunayo Agro-forest Development and Water Management System」との協働により、マウンテン州バーリグ郡カダ克蘭において森林再生事業を実施しました。

① アルノス、コーヒー等 32,666本の苗木を住民及びボランティア計110名で植樹。

② 植林方法・苗畑作りと管理、環境教育、森林農業、有機農業、木酢液をテーマに講習会。

③ 持続的な植林活動のため苗畑を設置、計44,000本の苗木を育成。

(3) キャンプ場での国際交流事業

① 地球環境基金助成事業で縁の深いフィリピン山岳民族の環境演劇グループ「Anak di Kabiligan(山の子どもたち)」が北杜市・名古屋での公演のために来日、北杜市滞在中、5月10日(火)から18日(水)までキャンプ場で受け入れました。滞在中須玉町と明野町で開催されたエコアートビレッジに参加・公演、高根清里小学校を訪問し5・6年生を対象に、竹製民族楽器演奏と民族ダンスのワークショップを行いました。

② 絆プロジェクト(NPO法人ピース・フィールド・ジャパン主催)

日本の地域社会を舞台に、イスラエル、日本、パレスチナの青少年(計12人)の交流と対話によって信頼醸成を行う平和のための活動。8月7日(日)から20日(土)までKEEPと山梨県小菅村で行われました。KEEPでは、キャンプ場に滞在してプログラム全体を通して学ぶ持続可能性の概念、人と人の交流の大切さを示したポ

ル・ラッシュ博士のこと、アイスブレイキング等の環境教育プログラムを体験するなど導入部分を担当しました。元BKFのローラ・ヴィラヌエバがピース・プラクティショナーとして指導にあたりました。

③ SCOA (Sports Camp Of America)

7年目を迎えたサマーキャンプ。米国からアスリートの大学生がキャンプカウンセラーとなります。スポーツという共通言語を通じて英語でコミュニケーションすることにより異文化も英語も身近に感じてもらえるようになることが狙いのプログラムです。KEEPでは小学生が延60名参加する人気のプログラムに育ちました。8月13日(土)～18日(木)に実施。

(4) タンザニア国立公園局から研修受入 9月24日(土)～10月20日(木)

(5) 北杜市国際親善姉妹地域交流

① ケンタッキー州マディソン郡訪問団・芸術家交流の派遣 5月9日(月)～18日(水)

② 同代表団・芸術家交流の受け入れ 10月11日(火)～18日(火)

③ ポール・ラッシュの会主催、代表団歓迎交流会 10月14日(金)

(6) 北杜市中学生海外交流事業

北杜市教育委員会の委託により2012年度の実施に向けてカナダ・アルバータ州クロウズネスト・パスと交流プログラムに関する現地との事前折衝等コーディネート業務を受託しました。

※2012年7月26日(木)～8月3日(金)に実施予定

(7) キャンプ場利用状況 56団体、延177日、延3,859人泊 【別表1】

研修交流事業部食育部(自然学校)の協力を得て食事提供にあたりました。

2. 開発部

(1) 教育旅行提案誘致活動およびコーディネート業務

2011年度担当団体 計62件 延5,998人泊 【別表2】

内訳 清泉寮 59件 5,518人泊

自然学校 1件 320人泊

キャンプ場 2件 160人泊

(2) イベント等

① 早稲田大学地域交流フォーラム 5月15日(日)

② 東日本大震災支援・第8回良い食品博覧会 5月28日(土)～29日(日)

③ ポール・ラッシュ記念フィールド交流戦 6月12日(日) 立教大学/九州産業大学

④ 平山郁夫絵画教室 6月15日(水)

⑤ 日本女子タッチフット選手権 7月9日(土)～10日(日)

⑥ 和波たかよし&土屋美寧子デュオリサイタル 9月23日(金)/3月20日(火)

3. 体験部

(1) 「持続可能な社会づくり」関連ワークショップ

2009年春のアダム・カヘン氏のワークショップを契機に、KEEPは社会変革を志向するファシリテーターたちの共感が集まる「場」となり、2011年度は18回のワークショップ【別表3】が開催されるに至りました。また、ポール・ラッシュ祭において、交流ワークショップ「地域から社会を変える新しいコミュニティづくり～ポール・ラッシュが描いた復興コミュニティモデル～」をサポートメンバーと企画運営し、11月6日には、交流WSのゲスト・廣嶋都留さんを囲む集い「何故、今、自分は生かされているのか?～世代を超えて共振する在り様と生き方～」を東京で共催しました。

(2) 東日本大震災復興支援プロジェクト・コミュニティを支える若手リーダー育成ワークショップ

前項の流れから、米国のベルカナ研究所、NPO法人ミラツクと共に、震災後の日本の復興のためにコミュニティを支える若手を育てる合宿を5月、8月、9月、11月、1月に計5回開催し、延620名が参加しました。この合宿から、被災地支援として「奥多摩・福島子どもサマーキャンプ」「ブラストビート福島」などのプロジェクトが生まれました。

(3) 地域活性化フューチャーセンター構想

さらに、多様なヒト・モノ・コトをつなぐことで、多角的な視点と未来志向の対話の場をつくり、アイデア創発と協調的なアクションを起こす「フューチャーセンター」を地域活性化に活かしていく活動を開始しました。

① その第一弾として、NPO法人ハナラボの女子大生向けインターンシッププログラム「ハナジョブ・イノベーション・ラボ」を誘致し、「北杜市×ハナラボ・未来シナリオプロジェクト」に着手しました。2月27日(月)～29日(水)、北杜市役所・支所等を対象にしたリサーチに始まり、3月23日(金)には、北杜市未来シナリオを深める合宿を行い、24日(土)には参加女子大生による「未来シナリオ発表会」を行いました。

② また、KEEP職員を対象に、フューチャーセンターとKEEPへの期待について、日本への導入と普及活動を行っている国際大学グローバルコミュニケーションセンター(GLOCOM)主幹研究員・野村恭彦氏を講師に迎えて勉強会を主催しました。

(4) 植物療法ネットワーク

① 山梨県の新分野進出企業若年者雇用支援事業の支援を受けて、森林療法、健康増進、メンタルヘルス等をフィットセラピー(植物療法)に統合したかたちで新たな「ヘルス・ツーリズム」を提供しようと、年7回の植物療法プログラムを実施、計189名が参加しました。【別表4】

② 国土緑化推進機構助成事業「清里癒しの森づくり植樹祭」9月

③ 12月～3月、清泉寮利用者に冬のミニプログラムを提供。

- (5) 西の魔女・おばあちゃんの家
4月29日～5月8日、8月、10月(ポール・ラッシュ祭)、11月(植物療法等)
開館計45日、入館者 3,273人
- (6) アロマトリートメントプログラム
定休日は設けず午前10時～午後8時30分の時間帯に提供。利用人数136名

4. 地域

- (1) ポール・ラッシュ祭～八ヶ岳カンティフェア～実行委員会 事務局
- (2) 北杜市長期滞在型リトリートの杜事業コンソーシアム 事務局
- (3) 国際交流北杜地域連絡協議会 理事
- (4) 北杜市バイオディーゼル燃料を考える会 会員
- (5) 小海線沿線地域活性化協議会 幹事
- (6) 清里・八ヶ岳南麓魅力づくり協議会 委員
- (7) 山梨県企業局・地域振興事業あり方検討委員会 委員
- (8) NPO 法人清里観光振興会 理事(4～10月) 庶務及び清里ピクニックバス会計担当
- (9) 清里朝ねぼう市運営協力 7月23日(土)～9月25日(日)

5. 東日本大震災被災地支援事業

- (1) コミュニティを支える若手リーダー育成ワークショップ 3の(2)参照
- (2) Art in a Box と Comfort Dolls
ACKのチャンネルを通じて、被災地の子どもたちのために、世界中の子どもたちにアートを通して、それぞれの能力が向上すること、また若いアーティストに表現の場を提供することを目的に活動している米国ニューヨークの団体Art in a Boxから絵画道具が寄贈されることになりました。その第一弾を、3月に日本聖公会「いっしょに歩こうプロジェクト」の紹介を得て、仙台市の社会福祉施設「まどか荒浜」に、米国の教会から届けられていたComfort Dolls(手づくりの人形)と一緒に届けました。
- (3) 清里観光振興会の「がんばれ日本! 清里プロジェクト」に参画し、招待した福島県双葉町の皆さんに自然体験プログラム、清泉寮ソフトクリームを提供しました。
- (4) 清里有志の会と共に埼玉県加須市に避難している福島県双葉町の皆さんをソフトクリーム慰問しました。 6月13日(月)

6. その他

- (1) 公益認定申請業務
- (2) 良い食品づくりの会
 - ① 第8回良い食品博覧会 5月28日(土)～29日(日)
 - ② 第40回良い食品づくりフォーラム東京 9月12日(月)～13日(火)
 - ③ 第41回良い食品づくりフォーラム沖縄 2月19日(日)～21日(火)

(3) ポール・ラッシュの会事務局

① 定期総会 8月2日(火)

② ケンタッキー州マディソン郡代表団歓迎交流会 10月14日(金)

③ ポール・ラッシュ祭～八ヶ岳カンティフェア～2011

ポール・ラッシュの会交流ブース、国際児童絵画展ポール・ラッシュの会会長賞

④ ポール・ラッシュ博士を偲ぶ会

(4) キープ日本後援会事務局 理事会・総会 9月9日(金)

(5) 山梨県アメリカンフットボール協会事務局

① 総会 6月11日(土)

② ポール・ラッシュ記念フィールド交流戦 県協会賞 6月12日(日)

② 日本女子タッチフット選手権 県協会賞 7月9日(土)～10日(日)

③ 第24回ラッシュボウル 10月16日(日)

(6) 清泉寮本館案内所

毎日午前9時～午後6時、旧フロントで案内業務を兼務で行いました。

別表 1

月	キャンプ場利用団体・グループ名
4月	若者のための環境×国際ミーティング in 清里 17人×3日
5月	第36回清里インタープリターズキャンプ 21人×3日 エコシアターキャラバン ジャパンツアール in 北杜 25人×9日 ドラムサークル 18人×3日
6月	山梨県立ろう学校 9人×2日 葛飾学園 7人×2日 九産大アメリカンフットボール部 50人×2日 タンザニアの農村青年を支援する会 10人×2日 森を楽しむ週末実習隊 15人×2日
7月	山梨県立ろう学校中等部 13人×2日 葛飾学園年長キャンプ 51人×2日 YETI 24人×2日 NEC 森の人づくり講座 2011 夏 17人×4日 聖ヨゼフ諏訪保育園 28人×2日 ビーネイチャースクール 13人×3日 横浜市向陽学園 26人×3日 体験学習研究会 34人×6日 韓国抱川市中学生交流キャンプ 23人×3日 日本キリスト合同教会 59人×3日 OK スポーツ 27人×2日 立教新座高校アメリカンフットボール部 54人×7日
8月	NVC 51人×5日 神奈川県ボーイスカウト大和一団 39人×3日 麻布中学校 34人×3日 レイチェルカーソン関東フォーラム 25人×2日 KIZUNA プロジェクト 20人×4日 山梨県緑化推進機構 10人×2日 聖マーガレット教会日曜学校 30人×3日 SCOA 70人×6日 自然学校やまもりキャンプ 30人×3日 湊ゼミ 13人×3日 立教学院環境ボランティアキャンプ 65人×3日 横浜 YMCA ジュニアユースキャンプ 31人×4日 横浜 YMCA トライアングルクラス 58人×3日 アムウェイ心の森キャンプ 29人×3日 青山学院女子短期大学 25人×3日 エネオス 38人×2日
9月	麻布大学農村研究会 12人×4日 立教大学櫃本ゼミ 13人×3日 ユースコミュニティリーダー 60人×3日 立教学院諸聖徒礼拝堂ハンドベルクワイヤ 26人×5日 立教大学佐々木ゼミ 50人×2日 アサクラ 13人×2日
10月	清里子どもキャンプ 7人×2日 清里インタープリターズキャンプ 20人×4日 国土緑化推進機構 25人×3日 ポール・ラッシュ祭ボランティア 79人×5日
11月	NEC 森の人づくり講座 2011 秋 20人×4日 森を楽しむ週末実習隊特別編 17人×2日 岡寛 17人×2日
12月	冬の自然を見る目がかわる10の方法 10人×2日 若者のための環境×国際ミーティング in 清里 18人×3日
3月	若者のための環境×国際ミーティング in 清里 20人×3日 青年海外協力隊技術補完研修 12人×3日 アムウェイ心の森キャンプ 30人×3日 若者のための環境×国際ミーティング in 清里 18人×3日

別表 2

月	開発部担当団体等
4月	聖路加看護大学 160人 優和福祉専門学校 60人
5月	早稲田大学校友会 100人 北堀ダンスクラブ 50人 ヤンマー農機新入社員研修 25人×2泊 良い食品博覧会 70人 ハリウッドビューティ専門学校 190人×2泊
6月	清里ダンスツアー 40人 ポール・ラッシュ記念フィールド交流戦 20人 山旅会 24人 エドゥケーレ読者交流会 200人
7月	聖路加国際病院オーケストラ部 30人 青梅市立新町小学校 160人×2泊 東京大学教育学部付属中等教育学校チャレンジウォーク 130人×2泊 日本女子タッチフット選手権 70人 立教大学大学院高岡ゼミ 10人 昭和学院小学校夏の学校 90人×2泊 旭化成ホームズ 25人×8泊 子ども英会話のミネルヴァ 140人×2泊 青山学院初等部英語クラブ 20人×2泊
8月	山梨英和高校 YWCA 50人×2泊 全国私立幼稚園連盟関東大会分科会 60人 三井物産アメリカンフットボール部 30人 山梨教会修養会 20人 霊南坂教会オリブ会 30人 川村学園中学校 120人×3泊 普通土学園同窓会 50人
9月	東京理科大学オーケストラ部 OB 会 45人×2泊 都立小金井特別支援学校 40人×2泊 東京大学生産技術研究所 20人×2泊 名古屋芸術大学 70人 立教大学セカンドステージ1期生 25人 2期生 25人 3期生 35人 立教大学笠原ゼミ 24人×2泊 全国私立保育園連盟中堅園長セミナー 60人 立教学院諸聖徒礼拝堂ハンドベルクワイヤ 26人×4泊 横浜国立大学付属鎌倉小学校 130人×2泊
10月	神社本庁教化部 60人×2泊 NTT 東日本 30人×2泊 ヤンマー農機 14人 国土緑化推進機構 30人×2泊 観光庁人材育成事業 30人×2泊 六日町中学校同窓会 25人
11月	桜美林中学・高等学校 PTA 150人 マイケルローズジャパン 30人×9泊 ハリウッドビューティ専門学校 70人 プロントコーポレーション 13人×2泊 日本環境教育フォーラム清里ミーティング 180人×2泊
12月	湯川れい子音楽事務所 17人 ランドローバーオーナーズクラブジャパン 100人
1月	ビーネイチャースクール 20人 ビーネイチャースクール 20人
2月	北杜市長期滞在型リトリートの杜事業コンソーシアム 25人 清里農業学校同窓会 150人 婚活セミナー 25人×2泊 藤枝エーデルワイスクラブ 29人 つなぐ人フォーラム 100人×2泊 デザイントラベル 20人 萌木の村職員研修会 30人
3月	文部科学省 150人×2泊 知覚コロキウム国際会議 70人×2泊 山梨中央銀行須玉支店 14人 聖母保育園 16人

別表 3

月	持続可能性関連ワークショップ
4月	Art of Hosting ギャザリング 19人
5月	PIJ(アダム・カヘンWS参加者再組織化) 17人 ガイアモーレ(講師サミット) 45人×2泊 ドラムサークル(非言語コミュニケーションファシリテーター養成) 20人×2泊
6月	Japan Dialog 20人 慶応大学三田の家合宿 10人×2泊
8月	NVCファミリーキャンプ 60人×5泊 プロセスワークセンター合宿 10人×2泊 ミラツク理事会 10人×2泊
9月	バランスト・グロースLLP(ガユーナ・セアロ氏招聘・組織開発) 30人×2泊 クロスボーダーリーダーシップサミット 70人×2泊
10月	アンサンブル・スターリング 14人×2泊 Japan Dialog 30人 最高の居場所 30人 リーダーシップ・ダイアログ(一心) 30人×2泊
12月	プロセスワーク&AL(組織開発ファシリテーター研究会) 50人×2泊
1月	チェンジエージェント(持続可能性に取り組むファシリテーター) 20人×2泊 イーズ(自己開発ワークショップ) 18人×2泊

別表 4

月	植物療法ネットワーク関連
5月	「西の魔女が死んだ」に見るスピリチュアリティ～フラワーレメディとスピリチュアリティ 8人
6月	エルダー旅倶楽部(グローバルキャンパスツアー)ハーブWS(環境教育事業部)
7月	ホリスティックな視点から日本の健康増進に「植物療法」が果たす役割を学んでみよう 39人 清里 癒しの森・植樹祭～聖樹紀行と音楽療法～ 109人 トトラボ「夏の森の植物療法野外実習」 9人
9月	園芸療法と聖ヒルデガルトの薬草療法～清里の自然・森林からたっぷり学ぶ2日間 12人 関谷尚子さんWS「自然からの癒しセミナーin 清泉寮」水を訪ねて森を感じる編
10月	ハーブ料理と森の癒しの2日間～フィットケミカルクッキングと森林セルフケア 18人
11月	西の魔女(おばあちゃん)は名心理カウンセラー～「西の魔女が死んだ」のもう一つの療法を学ぶ 15人
2月	森療時間(環境教育事業部)
3月	トトラボ「清里高原・早春の森 植物療法野外実習～生命の息吹を感じる」 5人

V. 保育事業部（清里聖ヨハネ保育園）

キリスト教の精神に基づき「一人ひとりを祝福する保育」を使命とし、神様の愛とやさしさ、思いやりの心・自然体験・国際感覚を柱として、特に幼児の主体性を大切に、豊かな感性を育むことを心がけ、その環境づくりに努力しました。

1 異年齢児保育の継続

縦割り保育を積極的に取り入れ、異年齢児がお互いにより刺激をうけともに喜び互いに受け入れあう心を育てています。

2 自然学校・森のようちえんプロジェクトとの連携

自然体験・森の日を通して清里の自然を通して五感を育む。日常の保育の中で自然に子どもたちが親しみ、豊かな感性と自然を大切にする心を育てています。

3 環境教育・国際理解プログラム

平和を大切にする心を育むため、日本の伝統や文化を大切にする心を育むため「ワールドプログラム」を行いました。日常の保育の中でも保育士が世界の出来事等を子どもたちに理解できるよう伝えていきます。

4 安全・安心な給食の提供

バランスの取れた手作りの食事・おやつを提供したり、季節の野菜・行事食などを取り入れている今日のメニューをディスプレイにならべ保護者に見ていただいています。

5 保育士の資質の向上

研修に積極的に参加し、自分たちの保育の振り返りをしています。

6 施設改善の見直し計画

(1) 園児の安全・衛生面から、当面の修繕の必要箇所を改善しました。

(2) 現在の施設の耐用年数から見て、さらに将来の中長期ヨハネ保育計画に基づき、国の助成金(安心子ども基金)獲得を前提として、2014年度(平成26年度)竣工を目標に、園舎を建て替えるための建設委員会・募金委員会を編成し、必要な調査・研究・視察などをスタートしました。

園児数

	やまね	りす	のぞみ	計	よろこび (5歳)	めぐみ (4歳)	あい (3歳)	のぞみ2 (2歳)	のぞみ1 (1歳)	計
男児	18	17	7	42	10	15	10	2	5	42
女児	8	10	9	27	6	3	9	7	2	27
計	26	27	16	69	16	18	19	9	7	69
家庭数	23	26	12	61						

市町村別(南牧村2、北杜市67)

VI. 製販事業部

3月に発生した東日本大震災による経済的影響および行楽需要の低迷を見込み、急遽当年度の補正予算を組みました。そして補正予算に対して大幅なかい離の無いよう、細心の注意を払い事業部運営に当たりました。第一四半期には震災の影響も徐々に薄れてきましたが、収入は予算には及びませんでした。しかしながら、夏期に入ると大規模な節電傾向により、避暑地としての清里が見直された結果となり、予算および前年実績を共に上回る収益を上げることが出来ました。年間を通して、収入は予算に到達出来ませんが、前年対比では100%となり、また経費支出の見直しと抑制により、部門営業損益は104.2%（+650万円）と予算を大きく上回りました。

1. 売上動向 (金額：千円)

	2011年度	2010年度	前年比
売店	332,626	321,008	103.6%
ソフト	162,005	175,254	92.4%
飲食	58,817	56,411	104.3%
その他	554	541	102.4%
合計	554,002	553,214	100.1%

2. 新店舗の設置

遊休施設となっていた清泉寮本館案内所隣の旧喫茶室を改装し、清泉寮セレクトショップとして営業を開始しました。清泉寮セレクトショップは観光土産店の域を脱し、直輸入アクセサリや雑貨を中心とした商品構成により、“女性が楽しめるショップ”をコンセプトとしてオープンしました。

当店のオープンによる効果は、単に1店舗が増えたことに留まらず、既存の清泉寮ギフトショップ（本館売店）の売上げをも押し上げる結果となり、収益増の一翼を担いました。

3. 通常業務

継続的に実施した通常業務は以下の通りです。

1. 清泉寮ギフトショップ・清泉寮ジャージーハット・清泉寮パン工房・キープファームショップ・清泉寮セレクトショップの5店舗を運営
2. ジャージー牛乳から 生クリーム・バター・ヨーグルトを自家製造
3. 無添加ソーセージを自家製造
4. 天然酵母によるこだわりのパンを自家製造
5. 地元産および県内産の果実を使ったジャムを自家製造
6. ジャージー牛乳の消費促進および高付加価値化を図った商品展開およびメニュー展開
7. 顧客満足度を高める 接客・サービスの向上
8. 各店舗コンセプトの明確化による 複数店舗利用促進
9. 飲食部門に於いては 「人と地球の健康」をキーワードとした 食の安全と環境への配慮を強く意識したメニューを展開
10. キープ農場産の牛肉および豚肉を多用したメニューを展開
11. 自家製乳製品を多用したメニューを展開
12. 物産展および催事等への出張販売（別表参照）
13. WEBページの改良および更新
14. ギフト需要に対応した 自社通販および百貨店等の産直販売
15. 購買の一元化による仕入管理
16. POSシステムによる徹底した在庫管理
17. ACKと連携した 海外製品の直輸入
18. 全店舗連携した発注管理
19. 滞在時間延長および複数店舗利用を促進
20. 各種インフォメーションの充実
21. 各種媒体およびメディアを活用した広報宣伝
22. 景観に配慮した各店舗周辺的环境整備
23. ガーデン管理および環境美化による 癒しの空間を提供
24. 可能な限り外注に頼らず 自らの作業で経費を削減
25. 各店舗間の横断的なシフトによる効率化で人件費を削減
26. 冬期間の効率的運営による収益構造の改善
27. 収入に応じた 徹底した支出の管理
28. 冬期集客を図るキープ・ウインター・プロジェクトへの積極参加

4. 製販事業部 出張販売

場所	事業名	期日
甲府 岡島百貨店	全国うまいもの特選グルメ対決！	6/23～6/29
長坂町 総合グラウンド	北杜ふるさと祭り	8/6
豊橋 丸栄百貨店	甲斐と信濃の国の物産展	8/25～8/30
名古屋 丸栄百貨店	山梨の物産と観光展	9/8～9/14
大宮 イトーヨーカ堂	山梨県フェア	9/17～9/19
川崎 日本食肉流通センター	ちくさんフードフェア	10/8～10/9
船橋 東武百貨店	にっぽんの味	10/27～11/2
双葉 ラザウォーク	山梨ちくさんフードフェア	10/29～10/30
新潟 伊勢丹	ズームイン!!サタデー 全国うまいもの博	11/2～11/8
羽村 富士見公園	羽村市産業祭	11/5～11/6
甲府 山交百貨店	山交パンフェスタ	11/23～11/29
静岡 伊勢丹	ズームイン!!サタデー 全国うまいもの博	12/16～12/25
甲府 山交百貨店	山交パンフェスタ	1/18～1/23
浜松 遠鉄百貨店	ズームイン!!サタデー 全国うまいもの博	3/21～3/27

出張販売件数	ソフトクリーム売上	物販売上	合計
14 件	10,002 千円	2,530 千円	12,532 千円

VII. 管理本部

キープ協会の管理部門としての強化・建て直しを目指し、本来の基本業務の原点に戻って、トップマネジメントと現場とをつなぎ、全社的コミュニケーションの管理を担い、他部門のサービススタッフとなり、全社的活動の推進に努力しました。

また、広報部ではより多くの人々への広報活動に努力しました。

1. 総務部

- (1) 財団運営事業計画の執行にあたっての周知徹底・進行管理
- (2) 理事会・評議員会に関する事項
- (3) 幹部会・事業部長会等に関する事項
- (4) 登記・法務等に関する事項
- (5) 関係官庁・諸団体等との折衝に関する事項
- (6) 社内規定集・契約書・重要文書・印鑑などの管理
- (7) 考案献策制度に関する事務局業務
- (8) 固定資産・リース物件・什器備品等の現物管理に関する事項
- (9) 防犯・防災・警備等に関する事項
- (10) 全社行事・イベントの立案・実施
- (11) 通達・通知・週報・メールなど協会内の情報伝達に関する業務
- (12) 稟議書の取扱・管理
- (13) 慶弔に関する業務（相親会・役員慶弔規定）
- (14) 寄附及び寄贈に関する業務
- (15) 職員の人事に関する事項（募集採用・労務管理・福利厚生・研修教育・労働保険・退職休職・人事文書・ハラスメント防止など）
- (16) 来客・接待などの業務
- (17) ボランティアの受け入れ業務
- (18) 企画事業計画書・企画事業報告書の取扱・管理
- (19) 清里聖ヨハネ保育園事務・監査対応業務
- (20) 理事長秘書業務・特命事項

2. 経理部

- (1) 公益法人への移行業務
- (2) 年度予算編成・予算管理業務
- (3) 資金繰り計画・実施
- (4) 決算業務・税務
- (5) 月次決算処理
- (6) 日常取引の会計処理
- (7) 各部現金出納の統括管理

- (8) 買掛金の統括管理
- (9) 固定資産・リース物件・什器備品の帳簿管理
- (10) 債権・債務の管理
- (11) 経理規定の整備・実行
- (12) 情報開示すべき財務諸資料の作成とホームページ公開
- (13) 会計監査に関する事項
- (14) 清里聖ヨハネ保育園の経理に関する事項

3. 施設部

- (1) 環境美化・安全管理
- (2) 固定資産の維持管理・補修・改修に関する業務
- (3) その他の特命業務

4. 広報部

- (1) 広報活動に関する事項
- (2) 来訪者にシーズン毎の情報を提供する清泉寮エリアマップの作成と配布（年間27,700枚）
- (3) キープだより発行（7月） 寄付者対象に配布（2,200通）
- (4) K E E P 総合リーフレット作成と配布（2,000枚） 八ヶ岳地区、伊勢丹、エコプロダクツ等
- (5) ホームページの管理フォロー、メールマガジン発行（2月から）
- (6) K E E P 週報 毎週発行して内部での情報共有
- (7) 八ヶ岳観光圏助成事業
国土交通省所管の観光地域プラットフォーム支援事業として、外国語観光案内板と自然歩道案内板を設置、英語・中国語・韓国語・日本語の自然歩道マップ説明書5万枚を作成、配布
- (8) 撮影、放送取材などメディア対応
空から日本を見てみよう 清里特集（テレビ東京）、報道番組エブリィ 農場とパン工房（日本テレビ）鉄道百選小海線（BSフジ）、キッチンが走る（NHK）
- (9) 旅行雑誌 3社から清泉寮、自然歩道など取材、掲載 写真提供等

5. その他のプロジェクト

- (1) I S O 事務局（内部監査体制）および、環境マネジメントプログラム
- (2) 危機管理計画および消防防災計画・大規模地震防災計画（自衛防災チーム）
- (3) 情報システム開発および構築
- (4) 事務処理システムの企画・開発
- (5) 経理システムの構築
- (6) キープ協会職員食堂を本部組織下に置き、スタッフ全体の福利厚生に寄与

VIII. 清里聖アンデレ教会

島田征吾司祭が常駐し、日本聖公会横浜教区の一教会としての働きと同時に、キリスト教精神に基づき設立されたキープ協会の精神的拠点としての働きを行いました

1. 宣教についての学びと取り組み

(1) 山梨県宣教委員会

2. 山梨県下三教会合同プログラム

(1) 県下三教会合同礼拝 7月18日 長坂聖マリヤ教会

(2) 県下日曜学校キャンプ 8月5日～6日 清里聖アンデレ教会

3. キリスト教関係学校・団体等の受け入れ

例年のように、多くの学校団体等の受け入れを行いました。

横浜英和小学校、聖心女学院初等科、関東学院六浦小学校、横浜学院

葛飾学園、青山学院初等科、子どもの園、多摩ファミリーシンガーズ

立教学院オールラッシュヤーズ、横浜教区礼拝音楽研修会など

4. キープチャプレンとして

(1) キープ創立記念日・63周年感謝礼拝 11月25日

(2) ポール・ラッシュ逝去記念礼拝 12月12日

(3) キープ協会新入職員オリエンテーションのお祈り 4月19日

(4) 事業所ごとの朝礼(お祈り)、会議(理事会・評議員会・幹部会等)の陪席

決 算 報 告 書

平成23年 4月 1日から

平成24年 3月31日まで

商号 財団法人キープ協会

北杜市高根町清里 3 5 4 5

比較貸借対照表

平成24年3月31日現在

資 産 の 部 科 目	平成23年度	平成22年度	差 異
1 流動資産			
現金	6,630,025	3,481,044	3,148,981
当座預金	0	0	0
普通預金	49,438,568	27,859,443	21,579,125
郵便便口	3,766,064	1,767,616	1,998,448
定期預金	6,500,140	500,000	6,000,140
売掛資産	42,342,552	37,378,148	4,964,404
棚卸資産	37,716,117	30,324,873	7,391,244
未収金	25,250,476	7,454,278	17,796,198
立替金	824,533	0	824,533
仮払金	5,116,401	2,129,110	2,987,291
貸倒引当金	△ 461,100	△ 318,100	△ 143,000
流動資産合計	177,123,776	110,576,412	66,547,364
2 固定資産			
① 基本財産			
特定預金	107,414,230	107,414,230	0
基本財産合計	107,414,230	107,414,230	0
② 特定資産			
保育園引当預金	13,500,000	13,500,000	0
施設整備基金引当預金	2,557,007	147,020	2,409,987
ラッシュ基金創設引当預金	164,578	127,076	37,502
ラッシュセンター運営引当預金	1,375,943	1,375,669	274
震災支援引当預金	427,487	4,062,170	△ 3,634,683
建物	502,630,035	522,901,292	△ 20,271,257
設備	26,049,411	29,347,839	△ 3,298,428
建設仮勘定	29,184,698	29,184,698	0
特定資産合計	575,889,159	600,645,764	△ 24,756,605
③ その他固定資産			
建物	1,208,966,804	1,254,822,514	△ 45,855,710
設備	461,926,829	497,783,547	△ 35,856,718
構築物	239,266,490	255,423,417	△ 16,156,927
農機具	10	38,008	△ 37,998
車両運搬具	37,619	210,685	△ 173,066
什器備品	38,997,661	48,388,195	△ 9,390,534
牛馬	5,338,734	6,717,392	△ 1,378,658
リース資産	95,857,636	85,956,260	9,901,376
ソフトウェア	1	104,738	△ 104,737
電話加入権	1,890,681	1,890,681	0
通信施設利用権	516,585	623,875	△ 107,290
著作権	4,710,417	4,710,417	0
出資	1,417,000	1,417,000	0
長期貸付金	5,087,913	5,548,757	△ 460,844
長期前払費用	36,615,102	36,615,102	0
差入保証金	106,960	106,960	0
繰延資産	8,544,847	7,713,990	830,857
その他固定資産合計	2,109,281,289	2,208,071,538	△ 98,790,249
固定資産合計	2,792,584,678	2,916,131,532	△ 123,546,854
資産合計	2,969,708,454	3,026,707,944	△ 56,999,490

比較貸借対照表

平成24年3月31日現在

負債・正味財産の部

科 目	平成23年度	平成22年度	差 異
1 . 流動負債			
買掛金	14,106,004	7,234,242	6,871,762
短期借入金	30,000,000	0	30,000,000
未払金	39,815,810	89,101,105	△ 49,285,295
未払費用	69,652,117	33,903,801	35,748,316
仮受金	27,759,726	33,947,561	△ 6,187,835
賞与引当金	12,740,000	12,240,000	500,000
流動負債合計	194,073,657	176,426,709	17,646,948
2 . 固定負債			
長期未払金	100,650,486	90,274,233	10,376,253
長期借入金	825,340,000	858,980,000	△ 33,640,000
退職給与引当金	0	0	0
退職給付引当金	27,119,383	22,385,723	4,733,660
固定負債合計	953,109,869	971,639,956	△ 18,530,087
負債合計	1,147,183,526	1,148,066,665	△ 883,139
3 . 正味財産			
① 指定正味財産			
補助金・助成金	55,039,178	60,398,388	△ 5,359,210
寄付金	481,054,498	502,340,685	△ 21,286,187
指定正味財産合計	536,093,676	562,739,073	△ 26,645,397
(内基本財産への充当額)	(7,414,230)	(7,414,230)	(0)
(内特定資産への充当額)	(528,679,446)	(555,324,843)	(△ 26,645,397)
② 一般正味財産	1,286,431,252	1,315,902,206	△ 29,470,954
(内基本財産への充当額)	(100,000,000)	(100,000,000)	(0)
(内特定資産への充当額)	(47,209,713)	(45,320,921)	(1,888,792)
正味財産合計	1,822,524,928	1,878,641,279	△ 56,116,351
負債基本財産合計	2,969,708,454	3,026,707,944	△ 56,999,490

正味財産増減計算書

(集計表)

自平成23年4月1日～至平成24年3月31日

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
(基本財産運用益)			
基本財産受取利息	62,448	146,024	△ 83,576
(事業収益)			
事業収益明細	1,418,349,951	1,320,157,778	98,192,173
(受取補助金等)			
補助金助成金収入	13,315,420	11,225,200	2,090,220
指定正味財産より振替補助金収入	5,359,210	5,359,210	0
(受取寄付金)			
寄付金収入	3,640,959	5,565,061	△ 1,924,102
指定正味財産より振替寄付金収入	25,501,960	23,446,371	2,055,589
(雑収益)			
利子収入	101,561	238,464	△ 136,903
雑収入	53,776,905	15,309,017	38,467,888
経常収益計	1,520,108,414	1,381,447,125	138,661,289
(2) 経常費用			
(事業費)			
事業費明細	338,329,605	323,138,695	15,190,910
(管理費)			
管理費明細	1,210,970,210	1,128,083,386	82,886,824
経常費用計	1,549,299,815	1,451,222,081	98,077,734
当期経常増減額	△ 29,191,401	△ 69,774,956	40,583,555
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益	0	0	0
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
固定資産廃棄損	173,553	2,451,002	△ 2,277,449
牛処分損	106,000	304,353	△ 198,353
退職給付引当金繰入	0	0	0
経常外費用計	279,553	2,755,355	△ 2,475,802
当期経常外減少額	△ 279,553	△ 2,755,355	2,475,802
当期一般正味財産増減額	△ 29,470,954	△ 72,530,311	43,059,357
一般正味財産期首残高	1,315,902,206	1,388,432,517	△ 72,530,311
一般正味財産期末残高	1,286,431,252	1,315,902,206	△ 29,470,954
II 指定正味財産増減の部			
受取寄付金	4,215,773	27,938,859	△ 23,723,086
受取補助金等	0	0	0
一般正味財産への振替額	30,861,170	28,805,581	2,055,589
当期指定正味財産増減額	△ 26,645,397	△ 866,722	△ 25,778,675
指定正味財産期首残高	562,739,073	563,605,795	△ 866,722
指定正味財産期末残高	536,093,676	562,739,073	△ 26,645,397
III 正味財産期末残高	1,822,524,928	1,878,641,279	△ 56,116,351

正味財産増減計算書

(管 理 費 内 訳)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
役員報酬	14,720,240	18,235,442	△ 3,515,202
給料手当	322,661,057	299,436,521	23,224,536
賞与	36,068,000	52,833,000	△ 16,765,000
賃金・雑給	115,859,986	101,369,053	14,490,933
法定福利費	65,137,985	58,949,442	6,188,543
福利厚生費	14,760,305	10,954,500	3,805,805
委託費	52,415,344	43,542,237	8,873,107
会議費	5,899,155	6,142,360	△ 243,205
会費イベント費	4,280,988	4,457,620	△ 176,632
企画調査費	3,628,151	4,927,468	△ 1,299,317
寄付金	80,000	45,000	35,000
業務用消耗品	38,042,902	32,279,981	5,762,921
教育研修費	811,227	2,694,782	△ 1,883,555
雑費	45,722,760	50,354,581	△ 4,631,821
雑損	1,107,201	734,227	372,974
支払手数料	20,893,356	18,287,405	2,605,951
修繕費	26,903,201	13,477,937	13,425,264
事務用消耗品	6,957,757	5,538,357	1,419,400
接待交際費	914,069	1,412,905	△ 498,836
宣伝広告費	4,671,007	5,861,571	△ 1,190,564
光熱・燃料費	86,349,824	83,466,087	2,883,737
電話通信費	13,285,303	12,798,054	487,249
S N プログラム費	28,482,381	20,135,461	8,346,920
旅費交通費	18,891,019	20,045,474	△ 1,154,455
国際交流事業費	2,666,175	4,586,632	△ 1,920,457
借地料	21,566,227	21,594,988	△ 28,761
諸税公課	15,023,282	15,225,735	△ 202,453
賃借料	15,348,974	17,510,650	△ 2,161,676
保険料	7,978,666	8,149,549	△ 170,883
減価償却費	173,180,282	166,914,366	6,265,916
繰延資産償却	740,572	703,158	37,414
退職給付費用	13,954,272	3,412,846	10,541,426
賞与引当金繰入	12,740,000	1,750,000	10,990,000
貸倒引当金繰入	143,000	△ 47,100	190,100
支払利息	19,015,542	20,233,097	△ 1,217,555
法人税・住民税及事業税	70,000	70,000	0
合 計	1,210,970,210	1,128,083,386	82,886,824

正味財産増減計算書

(事業収益内訳)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
宿 泊 収 入	268,805,162	247,749,172	21,055,990
食 堂 収 入	342,791,202	316,222,980	26,568,222
売 店 収 入	345,556,471	332,550,162	13,006,309
ソフトクリーム収入	162,004,745	175,253,883	△ 13,249,138
プログラム収入	97,575,884	101,064,556	△ 3,488,672
牛 売 却 収 入	1,357,908	4,385,147	△ 3,027,239
牛 乳 収 入	34,629,461	29,773,835	4,855,626
会 場 収 入	1,279,091	1,564,298	△ 285,207
入 館 料	6,924,935	5,894,613	1,030,322
受 託 費 収 入	98,263,912	36,457,151	61,806,761
運 営 費 収 入	51,405,640	58,802,210	△ 7,396,570
そ の 他 収 入	7,755,540	10,439,771	△ 2,684,231
合 計	1,418,349,951	1,320,157,778	98,192,173

(事業費内訳)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
期首商品棚卸高	30,324,873	30,172,002	152,871
肥 飼 料 購 入 費	7,309,383	6,743,013	566,370
乳 牛 諸 費	2,674,152	2,059,996	614,156
牛 売 却 原 価	1,401,410	648,184	753,226
育 成 費 控 除	△ 1,314,000	△ 2,458,000	1,144,000
売 店 材 料 費	188,754,475	177,514,647	11,239,828
ソフトクリーム材料費	25,263,087	27,282,561	△ 2,019,474
賄 材 料 費	120,658,147	109,993,848	10,664,299
保 健 衛 生 費	208,795	361,591	△ 152,796
保 育 材 料 費	765,400	1,145,726	△ 380,326
期末商品棚卸高	△ 37,716,117	△ 30,324,873	△ 7,391,244
合 計	338,329,605	323,138,695	15,190,910

一 般 正 味 財 産 増 減 表

	公 益 事 業	収 益 事 業
本 部	17,256,753	
環 境 教 育 事 業 部	10,615,871	△ 670,325
国 際 部	△ 9,721,713	△ 35,034,988
ポール・ラッシュ記念館	△ 5,655,968	△ 1,140,517
酪 農 事 業 部	△ 7,778,025	△ 12,142,017
震 災 支 援 事 業	0	
八ヶ岳自然ふれあいセンター	△ 1,187,807	
聖ヨハネ保育園	△ 17,836,091	
清 泉 寮		△ 76,539,860
製 販 事 業 部		115,839,981
那 須 平 成 の 森		2,663,662
自 然 学 校		△ 8,139,910
計	△ 14,306,980	△ 15,163,974
当期一般正味財産減少額	△ 29,470,954	
当期指定正味財産減少額	△ 26,645,397	

財 産 目 録

平成24年3月31日現在

科 目	金 額	金 額	金 額
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金 手元有り 高	6,630,025		
普通預金	46,735,836		
	山梨中央銀行高根支店		
	山梨県民信用組合大泉支店	643,170	
	J A 梨北農協清里支所	316,074	
	甲府信用金庫長坂支店	99,840	
	住友信託銀行甲府支店	96,442	
	足利銀行那須出張所	1,547,206	
郵便 口座	3,766,064		
定期預金	6,500,140		
売掛金	3,480,000		
	国土緑化推進機構		
	パンフィックコンサルタンツ	2,520,000	
	クレジット	8,255,062	
	タカハシ乳業他	28,087,490	
棚卸資産	37,716,117		
未収金	25,250,476		
立替金	824,533		
仮払金	5,116,401		
貸倒引当金	△ 461,100		
流動資産合計		177,123,776	
2. 固定資産			
① 基本財産			
特定預金	62,414,230		
	山梨中央銀行高根支店		
	甲府信用金庫長坂支店	35,000,000	
	山梨県民信用組合清里支店	10,000,000	
基本財産合計	107,414,230		
② 特定資産			
保育園引当預金	13,500,000		
施設整備基金引当預金	2,486,109		
	山梨中央銀行高根支店		
	山梨中央銀行高根支店	2,486,109	
	東京三菱UFJ銀行本店	70,898	
ラッシュ基金創設引当預金	71,003		
	山梨中央銀行高根支店		
	住友信託銀行甲府支店	55,453	
	みずほ銀行甲府支店	38,122	
震災支援引当預金	427,487		
	山梨中央銀行高根支店		
ラッシュセンター運営引当預金	1,375,943		
	山梨中央銀行高根支店		
建設備	502,630,035		
	国際交流センター他		
建設仮勘定	26,049,411		
	太陽光発電システム他		
特定資産合計	29,184,698		
③ その他固定資産			
建設備	1,208,966,804		
	宿泊施設・牛舎等その他施設		
構築物	461,926,829		
	給排水・電気設備・暖房設備他		
農機具	239,266,490		
	駐車場舗装他		
車両運搬具	10		
	トラクター他		
什器備品	37,619		
	トラック他		
リース資産	38,997,661		
	パソコン等業務用備品		
ソフトウェア	5,338,734		
	乳牛・ダチョウ		
電話加入権	95,857,636		
	プライベートネットワーク構築他		
通信施設利用権	1		
	給食管理・栄養計算システム		
著作権	1,890,681		
	電話加入負担金		
出資金	516,585		
	携帯電話加入権・テレビ加入権他		
長期貸付金	4,710,417		
	ボールラッシュ映画		
長期前払費用	1,417,000		
	山梨県民信用組合他2件出資金		
差入保証金	5,087,913		
	職員住宅取得資金貸付		
繰延資産	36,615,102		
	草地整備改良費用他		
その他固定資産合計	106,960		
	車両リサイクル料他		
固定資産合計	8,544,847		
	共同施設負担金他		
資産合計	2,109,281,289	2,792,584,678	2,969,708,454

財 産 目 録

平成24年3月31日現在

科 目	金 額	金 額
Ⅱ 負債の部		
1 . 流動負債		
買掛金 事業費等未払	14,106,004	
短期借入金 山梨中央銀行高根支店	30,000,000	
未払金 建築費等未払	39,815,810	
未払費用 管理費等未払	58,606,517	
	確定消費税	11,045,600
仮受金 従業員預り金他	27,759,726	
賞与引当金	12,740,000	
流動負債合計		194,073,657
2 . 固定負債		
長期借入金 山梨中央銀行高根支店	825,340,000	
長期未払金 NTTファイナンス他	100,650,486	
退職給付引当金	27,119,383	
固定負債合計		953,109,869
負債合計		1,147,183,526
3 . 正味財産		
		1,822,524,928